

うるおい

第11号
2020年7月



第11号発行に際してのご挨拶

昨年末に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬間に世界中に蔓延し、多数の死者を出すとともに、世界恐慌以来といわれる経済的損失をもたらし、社会に深刻な打撃を与えました。

東京オリンピックをはじめ、イベントは延期や中止となり、社会活動は大きく制限され、自粛生活を余儀なくされました。

今のところ、当地では感染の爆発的流行は起こっていませんが、ひとたびクラスターが発生すれば、一気に感染者数の増加を来します。さらに、秋から冬にかけては、インフルエンザの流行と重なって感染が拡大し、医療に混乱をきたすことが危惧されます。

今後も感染の拡大と収束を繰り返し、完全な終息には年単位を要すると予想され、新型コロナウイルスとの戦いは長期戦となります。

有効な治療法が確立されておらず、ワクチンの実用化がなされていない現状にあっては、感染予防をいかに図るかが課題です。

密集・密接・密閉の「3密」を避け、他者との身体的距離を取り、マスクを着用し、手洗いを励行するという個人の感染予防策は、感染の拡大状況に関わらず、基本的な生活習慣として継続する必要があります。

このような状況にあって、当院では感染を院内に持ち込まないため、職員の健康管理と感染予防策の徹底を図るほか、感染状況に応じて、面会を制限させていただき、来院される方々にマスクの着用と手の消毒をお願いしています。ご不便をおかけしますが、事情をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。



脳神経センター阿賀野病院

院長 近藤 浩

2020年7月



副院長 青木 賢樹

大脳皮質基底核変性症について

今回は、大脳皮質基底核変性症(大脳皮質基底核症候群)の話です。10万人あたり、5~6人程度の発病と考えられており、変性疾患でも珍しい、数の少ない疾患になります。年齢的には60代が多く、40歳から70歳まで幅広く発症しています。

概要

1968年にRebeizが進行性の左右非対称な筋強剛と失行に加え、皮質性感覚障害、他人の手徴候、ミオクローヌス、ジストニアを認める3症例を報告したのが始まりです。病名の由来は、大脳皮質機能(失語、失認、失行)の障害と、基底核の障害(歩行障害、無動などのパーキンソンニズム)の合併を持って、(大脳)皮質+基底核→(両者の)変性症との診断名になっています。残念ながら疾患の発病原因は、いまだに不明ですが、どうやらタウタンパクが関与していることが推定されています。

タウは、1975年神経系に特異的に発現する微小管結合蛋白質として発見されました。そして、タウ遺伝子はヒトでは17番染色体上に存在しています。タウタンパクを生化学的に解析すると、3リピートタウと4リピートタウに大別され、片方又は両者に蓄積するものに分類されます。3リピートタウが蓄積する疾患はピック病、4リピートタウは進行性核上性麻痺と大脳皮質基底核変性症で蓄積しており、そして、アルツハイマー病では両者が蓄積します。

変性症と症候群を並列した意味は、臨床症状は同じようでも、解剖したら病理所見が違うことがあり、現在は症候群として臨床診断しています。臨床診断と病理所見まで、一致は出来ないようなので最近では変性症より症候群と言う診断名になってきています。また、進行もいわゆるパーキンソン病とは違い、いっそう早く進行していくと考えられています。

症状

有名なものは他人の手徴候で、例えば左手が右手の邪魔をして、まるでひとごと(他人)のように振る舞う症状です。しかし、なかなかこれもお目にかかることはありません。見ていると不思議な感じがします。まるで、パントマイムで左手が右手の行為を邪魔し、本人は、真面目にその右手の行為を継続しているからです。片方がまるで他人の手のように邪魔するので、エイリアンハンドとも言われます。高次脳機能障害的には、失認、失行などと近い病態です。わかりやすい症状としては、喋りにくくなるような失語で始まる事もあります。今まで使えていた電気製品が使えなくなったり、動作がぎこちなくなったり、箸がうまく使えなくなったりします。また、半側の空間を無視し、物を見落としたりします。物を触っても、何かわからなくなったりもします。四肢、顔面の筋肉の動きに、ジストニア(奇妙な動き)やミオク

ローヌス(素早い筋の動き)も見られることがあります。

他に興味深い所見として、ベッド臥床程度まで症状が悪化しても、視覚-後頭葉の働きは保たれていることが予想される行動が認められます。例えば、食事の際にスプーンを見せると口が開いて、食べられることがあります(見て判断している=後頭葉機能は残しやすい)。その他に、下肢がカエルのように屈曲、外旋姿勢になりやすいようです。

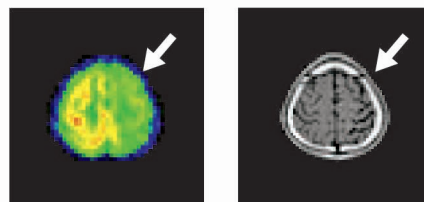
病気の進行は早く、急速にバランスを崩しやすくなり(体幹失調などが出現しやすい)歩行困難となり、転倒しやすくなります。嚥下機能も低下して食物が飲み込みにくくなり、誤嚥しやすく経管栄養などに移行する必要がある疾患です。誤嚥を繰り返すと肺炎になりやすく、生命が危険な状況に陥ることが多くなります。

診断・治療

診断の一助として脳画像所見があり、脳MRIでは大脳の萎縮に左右差が見られることと(軽い左右差)、脳SPECTでは(こっちはしっかりと左右差がある)大脳の血流低下の部位が認められることが診断の決め手になることが多いです。

初期のMRI所見で典型的な大脳皮質基底核変性症は、中心溝中心の萎縮を認め運動野と感覚野の幅が同じように見え、運動野の萎縮を認めます。通常は運動野が感覚野の1.5倍程度厚いのですが、運動野の脳回の幅が狭くなります。さらに若干の脳の左右差を認めたら、この疾患が疑われます。脳SPECTの血流の低下が、一番はっきりと判明します。その後、脳の左右差はあまり目立たなくなります。中心回(運動野)の左右差を認めることが多い疾患です。

残念なことですが、現時点での効果のある治療法は無く、対症療法が中心です。抗パーキンソン剤も使用しますが、あまり期待できないのが実情です。抗認知症薬が効くこともあります。その時はアルツハイマー病に近い病態かも知れませんが、やはり、リハビリテーションを中心に治療を行っていきます。しかし、なかなか進行を止められないのが現実です。状況を詳しく説明させていただき、病気の進行程度を予測し、患者さん本人とご家族と常に相談しながら、その時々より良い治療法を選択していくのが、一番大事であろうと考えております。



左の写真は脳SPECT画像で、右は脳MRI画像です。脳SPECT画像では、左半球側の血流が低下しています。脳MRI画像では、左半球側の溝が広く、左右差があります(萎縮が認められる)。

部門紹介 医事課

「医事課」というとあまり聞きなれない言葉かもしれませんが、「医療事務」といえば耳にしたことがあると思います。

「医療事務」とは、主に日々の外来患者さんに対する「外来医事業務」、入院患者さんに対する「入院医事業務」、診療記録(カルテ)・レントゲンフィルムの管理に係る「診療情報管理業務」などにより構成され、これらの業務を行う病院内の部署を「医事課」といいます。

その中でも重要な業務として診療報酬請求、いわゆるレセプト作成があります。皆さんは、診療サービスを受けた際に医療費の一部をお支払いされ、残りは保険請求します。そのレセプトを作成し、保険請求業務を行っております。

このように医事課は、患者さんの対応から医療費の計算、さらには医師や看護師のサポートしている幅広い業務を行っている部署です。



熱中症対策について



人間の身体は、平常時は体温が上がっても汗や皮膚温度が上昇することで体温が外へ逃げる仕組みとなっており、体温調節が自然と行われます。

しかし、体温の上昇と調節機能のバランスが崩れると、どんどん身体に熱が溜まってしまい、このような状態が熱中症です。

熱中症を引き起こす条件としては、①気温が高い、湿度が高い、風が弱いなどといった「環境」の要因、②高齢者や乳幼児、あるいは糖尿病などの持病があって暑い環境に十分に対応できなかったり、二日酔いや寝不足などによる体調不良といった

「からだ」の要因、③炎天下での激しい運動や屋外作業、または水分補給できない状況に置かれたりといった「行動」の要因があり、これらの条件が当てはまると熱中症を起こしやすくなります。

また、今年の夏は新型コロナウイルス感染症対策の一環として、マスクを着用する機会が多いと思います。マスクをすると、体内に熱がこもりやすくなり、口元の湿度が上昇するため、喉の渇きを感じにくくなります。屋外で他者との身体的距離が確保できれば、マスクを外しても良いと言われておりますので、状況判断が大切となります。

熱中症を予防するにはどうしたらよいか？

涼しい服装



徐々に身体を暑さに慣らしていきましょう。適度な運動と食事、十分な睡眠が大切です。

日陰を利用



涼しい服装で過ごし、エアコンや扇風機を使用して室内を快適な温度に保ちましょう。

日傘・帽子



普段から水分・塩分補給を心がけ、外出時には日傘や帽子などを用いましょう。

水分・塩分補給



普段から水分・塩分補給を心がけ、外出時には日傘や帽子などを用いましょう。

夏を乗り切れ!! ひんやりスイーツ



ヨーグルトゼリー

所要時間
約40分

材料(4人分)

粉ゼラチン	5g	プレーンヨーグルト	150ml
熱湯	50ml	レモン汁	大さじ1
砂糖	30g	果物やジャム、 フルーツソースなど	適量
牛乳	50ml		

1人分の栄養価	エネルギー/70kcal たんぱく質/3.2g 脂質/0.6g 炭水化物/13g カルシウム/61mg 食塩相当量/0.1g
---------	---

阿賀野市は新潟県酪農発祥の地と言われています。今回は牛乳とヨーグルトを使った冷たいスイーツを紹介します。

暑い夏を乗り切るため、水分補給を心がけている方も多いと思いますが、実はカルシウムも汗から失われ、不足しやすくなっています。

牛乳やヨーグルトなどの乳製品は、カルシウム源として吸収率のよい食品です。水分補給に加えて、カルシウムやナトリウムなどのミネラルも上手に補給し、元気に過ごしましょう。

作り方

- ① ゼラチン粉末を、熱湯に入れてかき混ぜて溶かす。完全に溶けたら、砂糖を加えて混ぜ溶かす。
- ② ボウルに①と牛乳、ヨーグルト、レモン汁を入れて、全体をよく混ぜ合わせる。
- ③ ②を器に入れて、冷蔵庫で冷やし固める。
- ④ 固まったら、上にお好みの果物やジャムなどを乗せて出来上がり。



外来のご案内 脳神経内科・内科・リハビリテーション科

受付時間 午前8時45分～11時30分(休診日 土・日・祝)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
第1診察室	近藤 浩	横関 明男	青木 賢樹	近藤 浩	佐藤 達哉
第2診察室	豊島 靖子	佐藤 達哉	(近藤 浩)	豊島 靖子	青木 賢樹
リハビリ テーション 外来					工藤 由理

※()の医師については、急患対応のみとなります。 ※都合により担当医が変更になることがありますので、ご了承下さい。 ※初めて受診を希望される方はあらかじめ電話にてご予約をお願いいたします。受診時間などを相談させていただきます。

院内行事レポート

七夕飾り

～星に願いを～

感染症対策として、面会制限をはじめ、レクリエーション行事も中止しており、患者様・ご家族様には大変申し訳なく思っております。このような状況下でも、皆さまに季節を感じて頂きたく、今年も七夕を楽しみました。色とりどりの七夕飾りは、リハビリの一環として、患者様が一つひとつ丁寧に作っていただきました。



他にも、安心安全に面会や院内見学ができるような取り組みを思案しておりますので、今後ともご理解ご協力のほど宜しくお願い致します。

医療法人潤生会 脳神経センター阿賀野病院 広報誌

うるおい

第11号
2020年7月

■発行日 2020年7月10日
■発行人 院長 近藤 浩 ■編集 広報誌事務局
〒959-2221 新潟県阿賀野市保田6317番地15
脳神経センター阿賀野病院
電話 0250-68-3500 FAX 0250-68-3690
URL <http://www.agano.or.jp> メール info@agano.or.jp

広報誌「うるおい」へのご意見・ご感想は
広報誌事務局までお寄せください。

編集後記

早いもので2020年も半分が過ぎました。この半年間は新型コロナウイルス感染症の話が中心で、いわゆる「新しい生活様式」という慣れない環境に、皆さまもお疲れではないでしょうか。少しでも当広報誌で息抜き、気分転換が図れたら幸いです。

さて、今回のレシビにもありますように、当院が位置する旧安田町は新潟県の「酪農発祥の地」とされています。当地域は、「だしの風」と呼ばれる台風並みの強風に度々見舞われ、稲作には適さず、そのため酪農が盛んになったと言われています。安田の生乳から出来た美味しい製成品「牛乳ヨーグルト・アイス」などは、お取り寄せもできますので、是非ご家庭でも楽しんでください。今年の夏は感染症対策、熱中症予防を意識した生活を送り、みんなでの状況を乗り切りましょう！次号もお楽しみに♪

広報誌事務局